

第 97 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

阿蘇山では、1 月 14 日に中岳第一火口から規模の大きな土砂噴出が発生し、火山活動が活発になっております。今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

霧島山では、御鉢火口で新しい噴気孔が形成されました。現在の活動は収まってきていますが、再び活発化する恐れがあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・地震活動は最近 2～3 ヶ月は静穏に経過しましたが、2000 年後半以降一時的な地震の増減を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。
- ・ボンマチネシリ 96-1 火口は 2000 年以降噴煙活動がやや弱まり、火口温度もやや低下しましたが、現在も 400℃前後の高温を維持していると推定されます。
- ・以上のことから、現在も火山活動はやや活発な状態が続いていると考えられます。

2) 十勝岳

- ・地震活動は、1999 年後半以降顕著な地震増加は見られず、静穏に経過しました。
- ・62-2 火口は噴煙量や火口温度が最近 2～3 年やや低下傾向にありますが、噴煙活動は依然活発で火口温度も 300℃以上と高温状態が続いていると推定されます。
- ・以上のことから、火山活動は現在もやや活発な状態が続いていると考えられます。なお、火口直下の増圧によると考えられる地殻変動は観測されていません。

3) 樽前山

- ・地震活動は 1996 年以降一時的な地震の増減を繰り返しながら活発な状態が続いています。1999 年には熱活動も高まり、その状態は現在も続いています。
- ・A 火口および B 噴気孔群では 2003 年 10 月に噴煙活動が活発化して火口温度も上昇しました。その後、B 噴気孔群の噴煙量は 12 月以降やや減少しました。また、高感度カメラで B 噴気孔群が夜間明るく見える現象は 10 月 18 日を最後に観測されていません。
- ・9 月下旬に山頂部の常時微動レベルが増大しましたが、その後は徐々にレベルを低下させる傾向にあります。
- ・山頂部のわずかな膨張は、2003 年 10 月以降認められていません。
- ・以上のように、火山活動は最近わずかに低下する傾向が見られるものの、A 火口および B 噴気孔群では依然として活発な状態が続いています。

4) 有珠山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 北海道駒ヶ岳

- ・地殻変動は1997年の観測開始以降、継続してわずかながら山体膨張の傾向を示しています。
- ・2000年噴火活動後の熱活動は全体として低下していますが、2003年9月以降、昭和4年火口と96年南火口列の弱い噴気がしばしば観測されています。
- ・北海道駒ヶ岳では1996年から2000年までの間に6回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した1929年大噴火や1942年中噴火の前の状況と類似しています。なお、地震活動には特段の変化はなく、静穏に経過しました。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・西岩手山での噴気活動と東岩手山山腹下のやや深い低周波地震が続いているものの、火山活動は穏やかに経過しました。

2) 秋田駒ヶ岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、穏やかに経過しました。

3) 吾妻山

- ・火山活動は12月以降やや活発化しています。
- ・2003年12月以降、一切経山付近で微小地震の活動が活発化しています。1月9日～17日、22日～23日に更に増加しました。
- ・噴気活動や地殻変動に変化はありません。
- ・今回の地震活動は、1998年6月以降繰り返し観測されている一切経付近における一連の群発地震活動の1つと考えられます。

4) 安達太良山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 磐梯山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

3. 関東・中部地方

1) 那須岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2) 草津白根山

- ・地震活動は静穏な状態が続きましたが、熱活動、化学組成には若干の変化が見られます。

3) 浅間山【火山活動度レベル2(やや活発な火山活動)】

- ・地震活動は、最近若干減少傾向ですが、2000年9月からの活発な状態が続いています。
- ・今後も火口周辺に降灰をもたらす程度の、小規模な噴火が発生する可能性があります、活動はやや低下する傾向も見られます。

4) 焼岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 御嶽山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

6) 富士山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- ・東北東山腹で2003年9月に確認された地面の陥没とごく弱い噴気は、その後、温度等のデータに大きな変化は見られません。また、地震活動、地殻変動等のデータにも異常な変化が見られないことから、噴火活動に直接繋

がる現象ではないと思われます。

7) 伊豆東部火山群

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

8) 伊豆大島【火山活動度レベル1（静穏な火山活動）】

- ・長期的には、島の膨張傾向、火口下の帯磁傾向が継続していますが、2003 年以降、やや鈍化しています。2003 年は地震活動も低調に推移しました。

9) 三宅島

- ・別紙のとおり統一見解を発表しました。

10) 八丈島

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

11) 硫黄島

- ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は進行しています。

4. 九州地方

1) 九重山

- ・1995 年 10 月の噴火で生成した火孔群の噴煙活動は弱まり、火山活動は静穏に経過しました。

2) 阿蘇山【火山活動度レベル2（やや活発な火山活動）→3（小規模噴火の可能性）】

- ・2004 年 1 月 14 日 15 時 41 分頃に規模の大きな土砂噴出が発生しました。土砂噴出に伴う降灰は、火口から東南東約 8km まで分布し、少量の新鮮なガラス片が含まれていました。翌日に実施した観測によると、中岳第一火口壁には、黒色の噴出物が付着していました。また、湯だまりは黒灰色に変色し、高さ約 5m の土砂噴出が断続的に発生していました。
- ・なお、2003 年には、地下深部に原因があると思われるわずかな膨張が GPS で観測されました。
- ・孤立型微動及び火山性地震の増加、湯だまり温度の上昇、湯だまりが変色するなど、火山活動は活発化しています。
- ・今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

3) 雲仙岳【火山活動度レベル1（静穏な火山活動）】

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

4) 霧島山

- ・新燃岳付近の火山活動は、静穏な状態で経過しました。
- ・御鉢付近の火山活動は 2003 年 10 月までは静穏な状態で経過していましたが、11 月より火山性微動を観測し、12 月は火山性微動発生後、火山性地震もやや多い状態となり、さらに御鉢火口内に新しい噴気孔が 2 ヶ所形成されました。また、火山性微動に対応する傾斜変動も観測されるなど、火山活動がやや活発になりました。
- ・現在の活動は収まってきていますが、中長期的には活動が活発化する恐れもあります。火口内および火口周辺では注意が必要です。

5) 桜島【火山活動度レベル2（比較的静穏な噴火活動）】

- ・桜島南岳は引き続き山頂噴火を繰り返しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態が続きました。10 月から 1 月 25 日までの噴火回数は 7 回、うち爆発的噴火は 4 回でした。
- ・火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態で経過しましたが、桜島の南西沖を震源とする A 型地震が増加しました。

6) 薩摩硫黄島

- ・10 月に 2 回噴火しました。
- ・連続した火山性微動が 10 月と 11 月に発生するなど、火山活動はやや活発な状態でしたが、12 月以降は穏やかな状態が続いています。

7) 口永良部島

- ・火山性地震の発生回数に目立った増加は見られませんでした。時折、火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。

8) 諏訪之瀬島

- ・10月から1月19日までに爆発的噴火が14回発生し、火山灰混じりの噴煙と降灰が、時折確認されるなど、火山活動はやや活発な状態となっています。

5. 海底火山

- ・福徳岡ノ場では、変色水が度々観測された。